科目名	日本史概説	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	古代から幕末・維新への日本史の流れを史料に基づきながらたどっていく。
	到達目標	自国の歴史について基本的な理解を得、国際社会の中で解説できるようになる。
授業計画	(1) イントロ (2) 近世～戦国から天下泰平へ (3) 近世～戦国から天下泰平へ (4) 近世～戦国から天下泰平へ (5) 近世～戦国から天下泰平へ (6) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (7) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (8) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (9) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (10)近代～ペリー来航から西南戦争まで (11)近代～ペリー来航から西南戦争まで (12)日本資本主義の確立 (13)日本資本主義の確立 (14)日本資本主義の確立 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。
	事後学習	配布プリントの精読。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	宮地正人編『日本史』世界各国史１　山川出版社　2008年
成績評価の基準と方法	基準	時代の流れ、大要が理解できているかを判断基準とする。
	方法	レポート（80%）と受講態度（20%）で判断する。
備考	年表、歴史地図必携。社会人の聴講、歓迎。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	外国史概説	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	世界で最初に工業化を経験し、19世紀にはイギリス帝国として世界の諸地域に大きな影響を与えたイギリスの歴史を通じて、近現代世界史を概観する。
	到達目標	イギリス帝国の歴史を概観することを通じて、国境を越えた歴史的関係を理解することができるようになる。帝国の歴史が現代世界に残した影響を踏まえたうえで、現代社会について考えることができるようになる。
授業計画	(1) 「イギリス」とは何か？－4つの地域と帝国の「遺産」 (2) 近代イギリスの起点（１）－宗教改革と二つの「革命」 (3) 近代イギリスの起点（２）－帝国の形成 (4) 連合王国の成立と「イギリス国民」の誕生 (5) アメリカの独立と帝国の再編 (6) 産業革命の近代社会 (7) パクス・ブリタニカ－ヴィクトリア朝期のイギリス (8) イギリス帝国とアジア－アヘン戦争とインド (9) 世紀転換期のイギリス帝国（１）－アイルランド自治問題 (10)世紀転換期のイギリス帝国（２）－南アフリカ戦争と帝国主義 (11)第一次世界大戦とイギリス連邦の成立 (12)第二次世界大戦とイギリス帝国 (13)脱植民地化とイギリス (14)帝国からヨーロッパへ？－ヨーロッパ統合とイギリス (15)総まとめ－帝国支配が遺したもの	
自学自習	事前学習	・イギリスに関係するかどうかにかかわらず、新聞の国際面をみておくこと。 ・前回配布されたプリントや資料を見直し、流れを理解しておくこと。
	事後学習	・配布されたプリントを見直して理解しておくこと。わからないことがあれば、辞書や参考文献で調べるか、教員に聞きにくること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。
	参考文献	川北稔／木畑洋一編『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスの歩み』(有斐閣、2000年）他、授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	近現代イギリス帝国史の基本的な事項が理解できており、文章で説明できていれば合格とする。
	方法	期末に実施する試験 60%、受講態度を 40%とし、受講態度は時折実施する小テストの結果、およびアンケートや感想文の提出状況で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	文化史概説Ⅱ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	近現代イギリス史、イギリス帝国史を題材に、近代化や都市化と文化との関係、宗教、階級、ジェンダー、エスニシティと文化との関係を歴史的に概観し、文化とは何かについて検討する。
	到達目標	イギリスを事例に近代社会が形成されていく過程を知ることで、近現代社会の諸制度や異文化を深く理解できるようになるとともに、現代社会や自文化を客観的にとらえる視点を身につける。多様性や可変性、越境性を踏まえて文化を理解することができるようになる。
授業計画	(1) 導入－文化とは何か？ (2) 文化史とは何か？（１） (3) 文化史とは何か？（２） (4) イギリス文化とは何か？－多様性と流動性 (5) 宗教とイギリス社会 (6) 「われら失いし世界」－工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (7) ジェントルマンであること－ヴィクトリア朝期の規範 (8) チャリティと近代イギリス (9) 帝国と食文化－紅茶と砂糖からみるイギリス史 (10)余暇の成立と大衆娯楽－旅行と博覧会 (11)ジェンダーからみるイギリス近代（１） (12)ジェンダーからみるイギリス近代（２） (13)帝国主義支配が遺したもの―多文化社会と歴史認識（１） (14)帝国支配が遺したもの－多文化社会と歴史認識（２） (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回配布したプリントを見直して、流れを確認しておくこと。
	事後学習	・授業中に配布されたプリント、資料を見直し、わからない言葉を辞書や参考文献で調べるか、教員に聞くかして理解しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。
	参考文献	指昭博編『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2012 年）他、適宜授業中に紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	文化とは何かという問題、近代社会の特質、階級、ジェンダー、エスニシティの問題について理解できており、説明ができていれば合格とする。
	方法	期末に実施する試験が 60%、受講態度を 40%とする。受講態度は、時折実施する小テストの結果とアンケートや感想文の提出で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会史概説Ⅰ	
担当者	鮫島 俊秀 / SAMESHIMA, Toshihide	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	我々の生きている現代は人類の様々な営みの上に築かれたものである。毎回切り口となるテーマを変えて、生命の誕生から現代までの人類の軌跡を辿っていく。
	到達目標	過去から現在までの人類の軌跡を学ぶことにより、将来良き市民として、社会及び人類の未来に貢献できるに足る歴史的思考力及び判断力を身に着ける。
授業計画	(1) ガイダンス、社会史とは何か (2) 人類と社会の誕生① (3) 人類と社会の誕生② (4) 戦争の話①～沖縄戦、庶民の暮し、特攻隊～ (5) 戦争の話② (6) 戦争の話＝ (7) 朝鮮半島の話 (8) 芸能を通して世の中を観る　～エンターティメントはレベルが低いのか？～ (9) 「事実」と「真実」について① (10)「事実」と「真実」について② (11)「事実」と「真実」について＝ (12)文字・言葉・恋の「うた」 (13)あるスポーツの誕生と伝播 (14)日本人はどこから来たか① (15)日本人はどこから来たか②	
自学自習	事前学習	日々発刊される新聞を読む事を勧める
	事後学習	講義を聴き、興味がわいた事項について各人のやり方で知識を深めることが望ましい
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義時に配布するプリントを用いる。
	参考文献	参考文献は特に指定しない。
成績評価の基準と方法	基準	単なる知識の暗記ではなく、歴史的思考力及び歴史的判断力がそれぞれのレベルで身についたと認められる者は合格とする。
	方法	テスト60%、受講態度20%、毎講義ごとのミニレポート20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会史概説Ⅱ	
担当者	山内 勇輝 / YAMAUCHI, Yuki	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	本講義の主題：「薩摩口と長崎口にみる対外交渉史」 先史時代より国際交流の窓口であった九州の歴史と文化を学ぶことは、今日の国際社会を生きていくにあたり有益な素養の一つとなり得るものである。「なぜ九州には美味しい食べ物が多いのか？」「なぜ幕末に薩摩は活躍できたのか？」「なぜ“明治日本の産業革命遺産”は九州にあるのか？」等の答えを本講義の中で明らかする。 なお、講義にあたっては下記の到達目標達成のために、単なる座学だけに留まらず、「五感で学べる講義」を実践していく予定である。
	到達目標	①江戸時代における異文化受容が現代の文化に与えた影響について理解する。 ②鹿児島と長崎をめぐる異文化交流の歴史とその意義について理解する。 ③鹿児島が有する他県には無い地理的・歴史的な特殊性について理解する。
授業計画	(1) はじめに：講義の進め方について (2) 「鎖国」を批判する (3) 「四つの口」をめぐる国際交流 (4) 食文化先進地 九州：美味しい食べ物がある街に深い歴史あり (5) 薩摩口①：東シナ海と薩摩 (6) 長崎口①：東シナ海と長崎 (7) 薩摩口②：海洋国家薩摩の勃興 (8) 長崎口②：貿易都市長崎の発展 (9) 薩摩口③：海洋国家薩摩の発展 (10)長崎口③：貿易都市長崎の衰退 (11)学問の流入地 九州：蘭癖大名たちの世界 (12)他地域の人から見た「麑府」と「崎陽」：古川古松軒と司馬江漢 (13)外国人から見た“Satsuma”＆“Nagasaki”：シュワルツとフルベッキ (14)「日本産業革命勃興の地」九州：明治日本の産業革命遺産 (15)総まとめ：終了試験に関して	
自学自習	事前学習	・日本史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容をしっかり復習すること。
使用教材・参考文献	使用教材	・資料レジュメを配布します。
	参考文献	原口泉 松尾千歳 ほか『鹿児島県の歴史（第２版)』山川出版社 2012年 瀬野精一郎 五野井隆史 ほか『長崎県の歴史』山川出版社 1998年 その他講義で紹介する文献
成績評価の基準と方法	基準	上記３点の「到達目標」が達成できたものは合格とします。
	方法	受講態度と終了試験（レポート）によります。(受講態度40%、終了試験60%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	思想史概説	
担当者	新名 隆志 / NIINA, Takashi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	現代の具体的な社会問題を倫理学的観点から考察することにより、自由、平等、責任といった倫理的な価値思想の伝統を学ぶ。またそのような価値思想を再検討・再構成することにより、社会問題に対する新しい見方を開く。
	到達目標	・現代の社会問題に対する倫理学的アプローチを学ぶ。 ・自由、平等、責任などの倫理的価値思想の伝統を学ぶ。 ・価値思想や社会問題について自ら検討する力を身につける。
授業計画	(1) 講義のガイダンス (2) 平等と差別1 (3) 平等と差別2 (4) 平等と差別3 (5) 平等と差別4 (6) 平等と差別5 (7) 平等と差別6 (8) 感情の倫理学1 (9) 感情の倫理学2 (10)感情の倫理学3 (11)自由をめぐる諸問題1 (12)自由をめぐる諸問題2 (13)自由をめぐる諸問題3 (14)自由をめぐる諸問題4 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	講義中に指示する通りに前もって教科書を読んでおくこと。
	事後学習	講義内容に関係する教科書の部分や参考書を読み、自分で考察を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	新名隆志・林大悟編『エシックス・センス――倫理学の目を開け』 ナカニシヤ出版 2013年
	参考文献	講義中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	講義内容をふまえた上で、倫理的価値の問題について自ら批判的検討を行い、主張を展開できること。
	方法	テストあるいはレポート70%、受講態度30%。詳しくは講義中に説明する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本史特論	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	東アジア諸国との関連を重視しながら雄藩の歴史を講義する。
	到達目標	近世・近代の諸論文の論点を理解できるようになる。
授業計画	(1) はじめに (2) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (3) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (4) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (5) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (6) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (7) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (8) 西郷隆盛研究 (9) 西郷隆盛研究 (10)西郷隆盛研究 (11)西郷隆盛研究 (12)西郷隆盛研究 (13)西郷隆盛研究 (14)西郷隆盛研究 (15)おわりに	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布資料の精読。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	原口泉ほか『鹿児島県の近・現代』山川出版社　2015年 『西郷隆盛全集1～6』大和書房　1976～1980年
成績評価の基準と方法	基準	講義および拙著の内容（論点）が理解された場合を合格とする。
	方法	レポート（80%）および受講態度（20%）で判断する。
備考	年表や歴史地図持参。社会人の聴講、歓迎。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学特講Ⅰ	
担当者	小平田 史穂 / KOHIRATA, Shiho	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	近代日本は、どのようにして始まったのか。近代とはどのような時代であったのか。現在数多くの研究者が多角的にこのテーマに取り組んでいる。一方、幕末の薩摩藩ではいち早く西欧の科学技術を受容し、製鉄・造船・紡績を中心とする「集成館事業」を推進し、日本の近代化のさきがけとなった。本講では「集成館事業」とその歴史的・文化的な背景や意味について学び、今日にのこされた近代化遺産についても学習する。
	到達目標	「集成館事業」の歴史的・文化的背景や内容、その意味を学び、日本の近代化に果たした役割を理解する。
授業計画	(1) 序論・世界情勢と薩摩 (2) 幕末期までの薩摩藩・島津家の系譜 (3) 薩摩藩の蘭学受容 (4) 島津重豪と天保の財政改革 (5) 島津斉彬の近代化政策 (6) 鋳砲事業と砲台の建設 (7) 「昇平丸」と蒸気船「雲行丸」の建造 (8) 写真技術・薩摩切子・紡績事業の研究開発 (9) 木村嘉平の近代活字と出版文化 (10)集成館事業を支えた人々－蘭学者の系譜－ (11)島津斉彬の死と薩英戦争 (12)薩摩藩英国留学生とその後 (13)日本各地への技術伝播 (14)集成館事業の終焉と世界の評価 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・日本の近代史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書を読み返して理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	松尾千歳「島津斉彬の集成館事業」尚古集成館 平成15年
	参考文献	特に指定しない。
成績評価の基準と方法	基準	「集成館事業」の概要と日本の近代史上の意義を理解したものは合格とします。
	方法	受講態度と終了試験（レポート）によります。(受講態度40%、終了試験60%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学特講Ⅱ	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	中国の近現代史を通史的に学ぶ。現代の中国はどのようにして成り立ったのか、その過程を世界の動向と関連づけながら考察する。
	到達目標	中国で起こった歴史的出来事を取り上げ、世界情勢とからめて中国の歴史を理解することを目標とする。
授業計画	(1) 中国史のとらえ方 (2) 清朝の斜陽――五族の統合、秘密結社、西洋からの衝撃、反乱の連鎖 (3) 清朝の斜陽――洋務運動、日清戦争、列強による「瓜分」、義和団 (4) 民国の誕生――革命派、辛亥革命 (5) 民国の誕生――北洋軍閥政権、第一次世界大戦と中国 (6) 民国の誕生――南京国民政府、世界恐慌、満洲事変 (7) 民国の誕生――日中全面戦争 (8) 現代中国――人民共和国の成立、土地改革 (9) 現代中国――社会主義建設、朝鮮戦争 (10)現代中国――大躍進運動から文化大革命へ (11)現代中国――改革開放政策、社会主義市場経済への転換 (12)現代中国――台湾と香港 (13)21 世紀の中国――グローバリゼーション (14)21 世紀の中国――発展と格差、環境問題、階層分化 (15)総復習	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で学んだ重要な事項について、自分の言葉で解説できるようにする。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司『新・図説　中国近現代史』法律文化社、2012 年、ISBN978-4-589-03391-8
成績評価の基準と方法	基準	中国の近現代史に関する基本的な事項を理解し、自分の言葉でわかりやすく解説できれば合格とする。
	方法	受講態度（50%）、期末試験（50%）。受講態度には授業中に実施する小テストを含む。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学特講Ⅲ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	イギリス帝国を題材に、移民や外国人といった「周縁」から国家や国民、市民権といった事柄を歴史的に検討する。
	到達目標	・特定の歴史的事象について、専門的な知識に基づいて考えることができるようになる。 ・国境を越えたグローバルな観点から歴史をとらえることができるようになる。 ・近代という時代が現代社会に残した影響について理解し、現代社会を客観的にとらえることができるようになる。
授業計画	(1) 導入ー「日本人であること」とは？（1） (2) 導入ー「日本人であること」とは？（2） (3) 移民大陸ヨーロッパの現状 (4) 近代国家と国民－国籍法と市民権（1） (5) 近代国家と国民－国籍法と市民権（2） (6) 「イギリス人」とは誰のこと？－帝国と国籍法 (7) 19世紀までの「他者」－帰化法と外国人の処遇 (8) 自治領と1914年イギリス国籍法 (9) 第二次世界大戦とイギリス帝国 (10)1948年イギリス国籍法の成立 (11)ウィンドラッシュ号来航の衝撃－戦後移民の始まり (12)1962年英連邦移民法の成立 (13)'Keep Britain White!'－さらなる規制へ (14)1981年イギリス国籍法の成立 (15)「イギリスらしさ」のゆくえ	
自学自習	事前学習	・前回の授業で配布したプリント、資料に目を通して流れを確認しておくこと。
	事後学習	・授業中に配布したプリント、資料を読んで復習をしておくこと。 ・わからない言葉については、辞書や参考文献で調べておくこと。 ・紹介された参考文献に目を通しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	近代における帝国と国籍法との関係が理解できていること、移民や難民、人種摩擦、多文化社会の問題について、知識に基づいて自ら考えを述べられることを基準とする。
	方法	期末に提出するレポートが 60%、受講態度を 40%とする。受講態度については授業中に実施する小テストの結果や感想文の提出状況で評価する。
備考	レポートについては、一度教員が添削をし、修正して再提出という形をとる。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学特講Ⅳ	
担当者	藤内 哲也 / TONAI, Tetsuya	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / ２年次	
	―	
科目概要	授業内容	日伊国交１５０周年記念：イタリアの歴史と文化 ２０１６年は日本とイタリアの間に国交が樹立されてから、ちょうど１５０周年にあたります。本講義では、これを記念して、イタリアの歴史と文化を取り上げます。ルネサンス美術や食文化、ファッションなど、イタリアの文化については少しは知っていても、その歴史的な背景はあまり知らないのではないでしょうか。そこで、まずイタリアの歴史を概説的に学んだうえで、地中海世界やカトリック教会との関係、文学・芸術、都市社会やユダヤ人などの個別のテーマについて学んでいきます。
	到達目標	・イタリアの歴史と文化について理解する ・食という身近な視座から、ヨーロッパ・地中海世界の歴史や地域間交流のあり方について理解することができる ・歴史的な視点から、現代社会のさまざまな問題について考えることができる
授業計画	(1) イタリアの歴史と文化を学ぶ視座 (2) イタリアの歴史①：古代末期～中世初期 (3) イタリアの歴史②：中世後期 (4) イタリアの歴史③：近世 (5) イタリアの歴史④：近代 (6) イタリアの歴史⑤：２０世紀 (7) イタリアと地中海世界 (8) ローマ教会とカトリック教会 (9) イタリアの都市社会 (10)ルネサンス美術 (11)イタリア文学の系譜 (12)服飾とモード (13)都市空間のなかの古代建築 (14)「ゲットーの時代」のユダヤ人 (15)まとめと展望	
自学自習	事前学習	・教科書の該当部分を前もって読んでおくこと。また、わからないことがあれば調べておくこと。 ・概説書などによって、ヨーロッパ史・イタリア史の知識を得ておくこと
	事後学習	・講義内容を復習し、わからない事項について調べておくこと ・講義中に紹介する文献を読み、授業内容の理解を深めておくこと
使用教材・参考文献	使用教材	藤内哲也編著『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2016 年 3 月刊行予定（刊行が遅れる場合にはプリントを準備します）
	参考文献	授業中に紹介する
成績評価の基準と方法	基準	到達目標および講義内容をふまえ、以下の 2 点について達成できたものを合格とします。①講義に関するキーワードについて正しく説明できる　②講義の主要なテーマについて論述することができる
	方法	試験（100%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学特講Ⅴ	
担当者	三浦 壮 / MIURA, So	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	1941 年から 1990 年までの現代史について，主として経済の側面に焦点を当て講義する。
	到達目標	現代日本経済の構造について，歴史的背景をおさえながら理解すること。
授業計画	(1) 日本現代史・イントロダクション (2) 戦時経済 1 (3) 戦時経済 2 (4) 占領・復興期の日本経済 1 (5) 占領・復興期の日本経済 2 (6) 占領・復興期の日本経済 3 (7) 高度成長 1 (8) 高度成長 2 (9) 高度成長 3 (10)石油危機と高度成長の終焉 1 (11)石油危機と高度成長の終焉 2 (12)繁栄の 1980 年代 1 (13)繁栄の 1980 年代 2 (14)バブル経済とその崩壊 1 (15)バブル経済とその崩壊 2	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	橋本寿朗他『現代日本経済』(有斐閣，2011 年)〔図書館蔵〕
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	時々小レポートの形で宿題を課す。
成績評価の基準と方法	基準	現代日本経済の概要がつかみとれた者は合格とします。授業の 3 分の 1（5 回以上）を欠席した者は自動的に不可となるので気をつけること。
	方法	試験 80 点＋小レポート 20 点，合計 100 点で評価する
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	法思想史	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	西洋の法思想史を扱う。特に古代ギリシアのプラトンとアリストテレスの思想について解説する。
	到達目標	(1) 西洋法思想史の概略に関する基礎的知識を習得する。 (2) プラトンとアリストテレスの考え方の違いについて、簡単に説明できるようにする。
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法思想史とはなにか (3) 西洋法思想史のながれ①（古代～中世） (4) 西洋法思想史のながれ②（中世～近代） (5) 西洋法思想史のながれ③（近代～現代） (6) 古代ギリシア哲学の概要 (7) プラトンの思想① （概要） (8) プラトンの思想② （イデア論） (9) プラトンの思想③ （国家論・正義論） (10)アリストテレスの思想① （概要） (11)アリストテレスの思想② （倫理学） (12)アリストテレスの思想③ （国制論） (13)プラトンとアリストテレスの思想の比較 (14)プラトンとアリストテレスの思想の今日的意義 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを使用して行う予定である。但しテキストを指定する場合もある
	参考文献	講義時間中に紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	プラトンとアリストテレスの思想の違いが説明できるかどうかを評価の基準とする。
	方法	レポートによって評価する。なお、講義の最後に「学習報告（この講義を通じて学んだこと）」を提出し、講義で学んだことを自己確認する。
備考	世界史（西洋史）及び西洋哲学史の基礎知識を必要とする。なお法学の専門的知識は特に必要ない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	政治史	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	この講義では、第二次世界大戦後の政治史を概観します。まず米国とソ連の冷戦について概説し、その後、日本の外交政策の経緯や冷戦下のアジアの状況などについて確認していきます。
	到達目標	講義では、米ソの冷戦や日本の外交政策の背景、朝鮮戦争、ベトナム戦争などの経緯を説明していきます。戦後政治史の全体をつかみ、日本との関係を考え、これからの国際政治を理解するための素地を作ることが、この講義の目的です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 冷戦とは何か (3) 米ソ冷戦①（冷戦体制の確立） (4) 米ソ冷戦②（ベルリン危機） (5) 米ソ冷戦③（キューバ危機とデタント） (6) 米ソ冷戦④（核軍縮の動き） (7) 米ソ冷戦⑤（キッシンジャー外交） (8) 米ソ冷戦⑥（冷戦の終結とソ連崩壊） (9) アジアの冷戦①（冷戦下のアジア） (10)アジアの冷戦②（中華人民共和国の成立） (11)アジアの冷戦③（朝鮮戦争） (12)アジアの冷戦④（ベトナム戦争） (13)冷戦下の日本外交① (14)冷戦下の日本外交② (15)結論	
自学自習	事前学習	教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	使用教材	初回の講義で指示します。
	参考文献	佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史（新版)』有斐閣、2009年 佐々木卓也著『冷戦』有斐閣、2011年 村田晃嗣ほか著『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009年 高坂正堯『現代の国際政治』講談社学術文庫、1989年 中西寛ほか著『国際政治学』有斐閣、2013年 田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識（新版)』有斐閣、2010年
成績評価の基準と方法	基準	講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書やインターネットの丸写しなど不誠実な答案は、評価の対象外となり、単位は認定されません。
	方法	受講人数に応じて、試験または期末レポートにより評価します。初回の講義で指示します。
備考	講義中に私語をする学生の受講は、認めません。講義担当者から注意を２回以上受けた場合、単位は認定されません。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地理学概論Ⅰ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	①地理学の基礎理論である立地論と②現代的問題への地理学的アプローチの二つのテーマについて，具体的な事例を交えながら解説します。
	到達目標	①立地論の考え方を理解し，②地理学的問題を理解することで，社会に対する地理学的視点を身につけることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 新しい地理学 (3) 農業立地論（1）―チューネンの「孤立国」 (4) 農業立地論（2）―農業立地論の応用 (5) 工業立地論（1）―ウェーバーの工業立地論 (6) 工業立地論（2）―工業立地の変化 (7) 商業立地論（1）―クリスターラーの中心地理論 (8) 商業立地論（2）―定期市の立地論 (9) 立地論のまとめ (10)多様な理論 (11)人口地理学 (12)農業地理学 (13)工業地理学 (14)歴史地理学 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	坂本英夫・浜谷正人編著『最近の地理学』大明堂，1985 年.
成績評価の基準と方法	基準	立地論を説明できることと地理的問題を説明できることを基準とします。
	方法	試験 80%，受講態度 20%で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地理学概論Ⅱ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	都市の内部構造について既存の研究と具体的な事例の両面からお話しします。近代から現代の都市がどのように形成されるのかをとらえるための考え方についてお話しします。
	到達目標	都市形成の理論を理解することで，都市の形態と社会の変化の関係について考えることができるようになることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 都市の内部構造 (3) 社会地区分析 (4) 因子生態分析 (5) 居住分化の理論―トレード・オフ (6) 居住分化の理論―バージェスとホイト (7) 居住分化の理論―D.ハーヴェイ 1 (8) 居住分化の理論―D.ハーヴェイ 2 (9) 都市形成の力学 (10)マルクス主義地理学と都市 1 (11)マルクス主義地理学と都市 2 (12)人文主義地理学と都市 (13)インナーシティ問題 (14)ジェントリフィケーション (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	P.ノックス・S.ピンチ『新版 都市社会地理学』古今書院，2005 年.
成績評価の基準と方法	基準	都市形成の理論と用語を説明できることを基準とします。
	方法	試験 80%，受講態度 20%で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地誌学Ⅰ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識，②地域調査の手法，③具体的事例の三つのステップで解説します。
	到達目標	地誌学の基礎を理解し，地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土1 (4) 地域あるいは風土2 (5) 地域調査法―統計 (6) 地域調査法―多変量解析1 (7) 地域調査法―多変量解析2 (8) 地域調査法―多変量解析3 (9) 地域調査法―空中写真 (10)地域調査法―主題図作成1 (11)地域調査法―主題図作成2 (12)地域調査法―主題図作成3 (13)地域を見る―日本と九州 (14)地域を見る―鹿児島 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院，1986 年.
成績評価の基準と方法	基準	地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。
	方法	試験50%，授業内課題30%，受講態度20%で評価します。
備考	授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地誌学Ⅱ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。
	到達目標	地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿1 (3) 文献に見る地域の姿2 (4) 文献に見る地域の姿3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GIS とは (7) 統計による主題図の作成1 (8) 統計による主題図の作成2 (9) 統計による主題図の作成3 (10)地図に見る地域の姿 (11)地図をつくる1 (12)地図をつくる2 (13)地図をつくる3 (14)地図・図表を用いたプレゼンテーション (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	地域調査の手法について復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。
	参考文献	今村洋大編著『Quantum GIS 入門』古今書院,2013.
成績評価の基準と方法	基準	文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。
	方法	試験50%，授業内課題30%，受講態度20%で評価します。
備考	授業の中で実際に作業を行います。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	人間と自然環境	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	人間と自然環境の関わりについて、①自然環境のしくみ、②人間による自然の利用、③自然災害と人間活動とう観点からお話しします。
	到達目標	人間と自然環境の関係について、自らの言葉で論述できるようになる。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 日本の地形・日本の気候 (3) 河川プロセス 1 (4) 河川プロセス 2 (5) 海岸地形 1 (6) 海岸地形 2 (7) 地形と土地利用 (8) 河川環境と人間の利用 (9) 土地利用の変化 (10)山林と人間生活 (11)自然環境と農業慣行 (12)土地利用変化と自然災害 (13)自然災害の事例 1 (14)自然災害の事例 2 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	貝塚爽平『日本の地形』岩波新書, 1977 年.
成績評価の基準と方法	基準	自然環境のしくみと人間活動について、自らの言葉で論じることができることを基準とします。
	方法	試験 80%、受講態度 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	考古学概説	
担当者	竹中 正巳 / TAKENAKA, Masami	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	考古学の学問的な特徴、研究方法について述べた後、人類誕生から近代までを時代ごとに考古学の面から解説する。実際の発掘調査の事例や古人骨から復元した当時の人々の顔かたちや体つき、生業、社会、文化、習慣なども紹介していく。
	到達目標	過去に暮らした人々が残した遺構・遺物から人々の生活、文化、社会を学び、考古学の概要を広く理解する。
授業計画	(1) 考古学の特徴 (2) 考古学の研究方法 (3) 人類誕生から旧石器時代まで (4) 人類誕生から旧石器時代まで (5) 縄文時代 (6) 縄文時代 (7) 弥生時代 (8) 弥生時代 (9) 古墳時代 (10)古墳時代 (11)歴史時代 (12)歴史時代 (13)古人骨研究に基づく日本人の成り立ち (14)発掘調査の実際 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・授業で紹介する「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業で紹介した「参考文献･参考図書」を再度読むこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。
	参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、考古学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
	方法	レポート（80点)、受講態度（20点)。
備考	オフィスアワー：授業終了後の15分間	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	民俗学概説	
担当者	森田 清美 / MORITA, Kiyomi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	人々の民俗伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより生活文化の変容を明らかにし、人々の生き方を問う。そのうえで、老人や幼児への虐待・老人への詐欺、隣人愛の喪失・パワーハラ・ブラック企業・医療・介護・凶悪事件の増加などの諸問題を解決していくことを目指す。
	到達目標	日本人の伝統文化・こころを理解する。そのことにより、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知ることが出来る。そのうえで社会へ貢献する意欲と能力・実践力を身につける。
授業計画	(1) 民俗学とは何か（現代社会における民俗学の視点と応用） (2) 環境民俗学（家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む） (3) 人びとの生業（農業・漁業・諸職、建築儀礼など。魅力ある農水産　　業とは何か、起業意欲への応援と促進） (4) 年中行事の変化と意味（正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など） (5) 誕生祝い・成人式・結婚式・厄年祝いなどの問題（人生儀礼Ⅰ） (6) 生と死の意味を医療民俗学などを通して考える。（人生儀礼Ⅱ） (7) 健康・病気・医療・介護を医療民俗学的に考える（病気とは何か） (8) 修験道と呪術者から見る日本宗教（民間信仰・民俗宗教Ⅰ） (9) シャーマニズムと「隠れ念仏」（民俗宗教Ⅲ） (10)民俗芸能の魅力と保存（太鼓踊などの伝統芸能と観光資源） (11)今でも生きている昔話と伝説・ことわざ (12)神話と民俗（日向神話（天孫ニニギノミコトの高千穂降臨の意味） (13)妖怪と幽霊への興味と魅力 (14)過疎の民俗・都市の民俗（地方崩壊への対処） (15)総まとめ　（現代民俗学の行方と社会への貢献について）	
自学自習	事前学習	毎回の授業を受けるにあたって、事前に予習しておくべき事項 ・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要、および次回まで復習すべき事項 ３回おきに、小レポートを課す。 授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	授業ごとにプリント（小冊子）を次回の分まで配布する。
	参考文献	○福田ｱｼﾞｵ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館 ○谷口貢・板橋春夫編『日本人の一生』八千代書房 ○西海賢二など編　『日本の霊山読み解き事典』柏書房（南九州・沖縄は森田清美担当）
成績評価の基準と方法	基準	総合的に、到達目標を踏まえて、民俗学の理解が深まり、民俗社会に貢献する心構えが出来た者を合格とする。
	方法	平常点（授業態度・出席　20点・レポート（20点）・期末試験（60点）
備考	希望により民俗学巡検（民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査調査）を実施。積極的に参加して欲しい（「まつり」を見に行こう）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学演習Ⅰ	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	日本近代政治・経済に関する史料を読み、国際社会の中での日本の歴史の理解を深める。
	到達目標	基本史料を読み、古文書の読解力を養うと共に、テーマにそくして発表できる能力を身につけることを目指す。
授業計画	(1) はじめに (2) 近代史料 (3) 近代史料 (4) 近代史料 (5) 近代史料 (6) 近代史料 (7) 近代史料 (8) 近代史料 (9) 近代史料 (10)近代史料 (11)近代史料 (12)近代史料 (13)近代史料 (14)近代史料 (15)まとめ～明治維新と産業革命～	
自学自習	事前学習	・配布プリントを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	配布プリントの精読。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	『日本史史料』〔4〕近代　歴史学研究会編　岩波書店
成績評価の基準と方法	基準	演習への取組、発表、レポート作成等による。
	方法	レポート（80%）および受講態度（20%）で判断する。
備考	年表、歴史地図必携。社会人、歓迎。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学演習Ⅱ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	―	
科目概要	授業内容	小グループにわかれて、特定の歴史的事件について調査、報告し、議論する。その分野に関する先行研究を探し、参考文献や論文の議論の枠組みを紹介する。
	到達目標	・他の学生と協力して、調査、報告ができるようになる。 ・特定の事柄に関する文献や資料を探すことができるようになる。 ・入手した文献や資料を整理し、その内容を分かりやすく報告できるようになる。 ・レジュメやパワーポイントを用いて、報告資料を適切に作成できるようになる。 ・他の人の報告を聞いて、質問やコメントをし、議論できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーションとグループ分け (2) 参考文献を探すために (3) 課題の決定 (4) グループ調査（１） (5) グループ調査（２） (6) 概要の報告と討論 (7) 参考文献リストの作成 (8) グループ調査（３） (9) グループ調査（４） (10)参考文献の議論の報告と討論 (11)論文の探し方と読み方について (12)グループ調査（５） (13)グループ調査（６） (14)論文の概要報告と討論 (15)論文の概要報告と討論	
自学自習	事前学習	・報告に向けて、参考文献を収集し、読んで整理しておくこと。 ・報告に向けて、レジュメやパワーポイントを作成すること。
	事後学習	・報告の際に指摘された課題や問題点を解決しておくこと。 ・他の人の報告で理解できなかったところがあった場合は、辞書、参考文献などで調べておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。レジュメや資料は報告者が準備する。
	参考文献	参考文献は自ら探すこと。
成績評価の基準と方法	基準	適切な文献や資料が収集できており、その内容を整理して報告できていること、他の人の報告の際に積極的に参加できていることを評価の基準とする。
	方法	受講態度 60%、期末に提出するレポートを 40%とする。受講態度は、報告への取り組み方、報告の出来、議論への参加状況で評価する。
備考	この授業では、授業以外でグループで集まって作業する必要があります。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学演習Ⅲ	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	日本史研究の基本となる古文書や古記録等の基礎史料を読み、日本や郷土の理解を深める。
	到達目標	基礎史料を読むことで、歴史の理解や楽しさを知ると共に、各自が研究テーマを設定し、発表できる能力を身につけることを目指す。
授業計画	(1) はじめに (2) 近世史料論読 (3) 近世史料論読 (4) 近世史料論読 (5) 近世史料論読 (6) 近世史料論読 (7) 近世史料論読 (8) 近世史料論読 (9) 近世史料論読 (10)近世史料論読 (11)近世史料論読 (12)近世史料論読 (13)近世史料論読 (14)近世史料論読 (15)まとめ　～近世社会の特質	
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。
	事後学習	配布プリントの復讐。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	『日本史史料』〔3〕近世　歴史学研究会編　岩波書店
成績評価の基準と方法	基準	演習への取組、口頭発表、レポート作成等による。
	方法	レポート（80%）および受講態度（20%）で判断する。
備考	年表・歴史地図必携。社会人、歓迎。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学演習Ⅳ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	―	
科目概要	授業内容	戦争や領土争いなど過去をめぐって複数の国や地域が対立している事柄を選び、その問題についてバランスのとれた歴史記述（共通教科書）を作成する。
	到達目標	・他の学生と協力し、最終成果物を作成できる。 ・特定の事柄について、参考文献や資料を収集し、整理して、口頭で報告できるようになる。 ・報告や最終成果物の作成に必要な資料を作成できるようになる。 ・異なる歴史認識が存在することを踏まえて、それぞれの主張や意見が対立している点を客観的に説明できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション－「共通教科書とは」 (2) グループ分けと課題決定に向けた話し合い (3) 課題決定及び参考文献の探し方について (4) グループ調査（１） (5) グループ調査（２） (6) 現状報告 (7) グループ調査（３） (8) グループ調査（４） (9) 現状報告 (10)グループ調査（５） (11)グループ調査（６） (12)現状報告 (13)「共通教科書」の作成 (14)「共通教科書」の作成 (15)最終報告	
自学自習	事前学習	・成果物の作成に向けて、参考文献を収集、整理しておく。 ・成果物の作成、報告に必要な資料を作成する。
	事後学習	・報告の際に指摘された問題点を解決しておく。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。レジュメ、資料は報告者が準備すること。
	参考文献	教員の助言の下、参考文献は自ら探すこと。
成績評価の基準と方法	基準	成果物の完成に向けて協力して必要な作業ができているか、歴史認識の対立するところについて、客観的に整理し、わかりやすく説明できているかを基準とする。
	方法	授業中の報告、作業への参加状況など受講態度60%、最終成果物40%で評価する。
備考	この授業では、授業以外でグループで集まって作業する必要があります。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学演習Ⅴ	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	―	
科目概要	授業内容	卒業論文の作成に向けて、レポートと論文の違いを理解したうえで、テーマを決めて論文作成の練習を行う。
	到達目標	論文の書き方（作法）を習得する。自らの興味関心からテーマを決めて考察し、発表することができ、また発表者に意見やアドバイスをするなど、互いに学び合いながらレベルアップできることが目標である。
授業計画	(1) 導入 (2) 論文の書き方（作法）について (3) 発表と質疑応答、意見交換① (4) 発表と質疑応答、意見交換② (5) 発表と質疑応答、意見交換③ (6) 発表と質疑応答、意見交換④ (7) 発表と質疑応答、意見交換⑤ (8) 発表と質疑応答、意見交換⑥ (9) 発表と質疑応答、意見交換⑦ (10)発表と質疑応答、意見交換⑧ (11)発表と質疑応答、意見交換⑨ (12)発表と質疑応答、意見交換⑩ (13)発表と質疑応答、意見交換⑪ (14)発表と質疑応答、意見交換⑫ (15)総括	
自学自習	事前学習	レジュメ作成、口頭発表の練習などの準備をする。
	事後学習	質問・意見を参考に、レジュメを修正して考察を深める。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	必要に応じて講義中に紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	見やすいレジュメを作成し、わかりやすく順序立てて発表することができる。また発表を聞いて質問・意見を述べるなど、考察を深めることができたものは合格とする。
	方法	発表（40%）、受講態度（20%）、レポート（40%）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史学演習Ⅵ	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	―	
科目概要	授業内容	卒業論文にむけて、先行研究の整理（テーマの設定と参考文献の収集）について理解を深め、レジュメを作成する。各自のテーマと考察を発表し、互いに批評しあう。
	到達目標	自らのテーマを設定して、先行研究の整理ができる。そして資料を提示して考察し発表することを通して論文作成の基本を習得し、卒業論文へとつなげていくことが目標である。
授業計画	(1) 導入 (2) 先行研究の整理（テーマの設定と参考文献の収集）について (3) 発表と相互批評、意見交換① (4) 発表と相互批評、意見交換② (5) 発表と相互批評、意見交換③ (6) 発表と相互批評、意見交換④ (7) 発表と相互批評、意見交換⑤ (8) 発表と相互批評、意見交換⑥ (9) 発表と相互批評、意見交換⑦ (10)発表と相互批評、意見交換⑧ (11)発表と相互批評、意見交換⑨ (12)発表と相互批評、意見交換⑩ (13)発表と相互批評、意見交換⑪ (14)発表と相互批評、意見交換⑫ (15)総括	
自学自習	事前学習	レジュメ作成、口頭発表の練習などの準備をする。
	事後学習	質問・意見を参考に、レジュメを修正して考察を深める。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	必要に応じて講義中に紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	テーマを決めて先行研究を整理し、資料を分析して発表することができる。また発表を聞いて質問・意見を述べるなど、考察を深めることができたものは合格とする。
	方法	発表（40%）、受講態度（20%）、レポート（40%）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地域環境演習	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本演習は野外に赴き，文化や農業、都市、歴史など地域社会とそれを取り巻く環境との関係を実地に学ぶことを目的としています。受講者は論文を読み，課題を設定し，事前調査を行った上で巡検当日に現地で発表と調査を行い，それをまとめます。
	到達目標	①野外巡検で精力的に活動できること，②文献調査を行いまとめることができるようになること，③現地調査を行い，口頭発表できるようになることを目標とします。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査資料作成 (8) 巡検① (9) 巡検② (10)巡検③ (11)巡検④ (12)巡検⑤ (13)受講者による口頭発表① (14)受講者による口頭発表② (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な作業，調査を行うこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介します。
成績評価の基準と方法	基準	内容よりも事前調査や野外調査において積極的に活動できるかを重視して評価します。
	方法	論文発表 20%，事前調査 20%，巡見参加 20%，口頭発表 40%を目安とします。
備考	授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地誌学演習Ⅱ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本演習は地域調査の実践を通じて地域を理解する能力を向上する事を目的とします。そのため受講者は論文を読み，課題を設定し，事前調査を行った上で巡検当日に現地で発表と調査を行い，それをまとめます。
	到達目標	①野外巡検で精力的に活動できること，②文献調査を行いまとめることができるようになること，③現地調査を行い，口頭発表できるようになることを目標とします。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査資料作成 (8) 巡検① (9) 巡検② (10)巡検③ (11)巡検④ (12)巡検⑤ (13)受講者による口頭発表① (14)受講者による口頭発表② (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な作業，調査を行うこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介します。
成績評価の基準と方法	基準	内容よりも事前調査や野外調査において積極的に活動できるかを重視して評価します。
	方法	論文発表 20%，事前調査 20%，巡見参加 20%，口頭発表 40%を目安とします。
備考	授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	民俗学演習	
担当者	町 泰樹 / MACHI, Taiki	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	本演習では、学生が主体的に民俗事象の調査・研究を行えるようになることを目的とする。そのために、学生には、民俗調査で必要な「読む・見る・聞く」、そして「書く」という４つの能力を、文献の購読や観察実習を通して体系的に修得し、実際に民俗行事の巡検において、それらの力を実地で活用することを求める。同時に、学生は、関心のある民俗事象について調べ物学習を行い、その成果を授業中に発表する。これにより、主体的に学習する力を獲得させる。
	到達目標	学習者は、文献検索および引用方法について学び、学術的な記述ができるようになる。学習者は、観察実習を通して民俗調査における観察の重要性を理解するとともに、実際の民俗行事の巡検を通して、それに関する観察にもとづく記述ができるようになる。学習者は、自らが設定したテーマに沿って調べ物学習を行うことで、主体的に学習し、課題を解決する方法を習得できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 文献検索・ネット利用に関する講習と実習 (3) 文献のまとめ方に関する講習と実習 (4) 黎明館見学 (5) 個別テーマの学習計画発表会（1） (6) 個別テーマの学習計画発表会（2） (7) 観察実習（1）～日常の一コマを切り取る～ (8) 観察実習（2）～フィールドノート発表会～ (9) グループ・ワーク（1）（調べ物学習経過報告） (10)グループ・ワーク（2）（調べ物学習経過報告） (11)民俗行事の巡検 (12)演習発表（1） (13)演習発表（2） (14)演習発表（3） (15)教員による総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・専門用語については民俗辞典、意味の分からない用語については辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・見学や実習、巡検を行うたびにレポートを課す。課題の意味を理解し、期限内に必ず提出すること。 ・文献講読に際しては、活発なディスカッションのために、指定された文献を必ず一度は読んでおくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を利用する。
	参考文献	・小野重朗『南九州の民俗文化』法政大学出版局、1990年（ISBN：4-588-00312-7）。その他の文献も適宜授業中に紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	・受講態度：5回授業を欠席した場合は不合格とします。 ・レポート課題：適切な文献の検索および引用の方法、ならびに民俗事象の基礎的な記述の仕方を習得していれば合格とします。 ・演習発表：自らの関心に基づき、客観的な資料を提示してプレゼンテーションが行われていれば合格とします。
	方法	受講態度15%（事前連絡のない欠席は減点します）、レポート課題の評価50%、演習発表35%。
備考	民俗学の基礎的な知識がなくとも、自ら学ぶ意欲を持ち、その方法を習得したいと考えている学生は歓迎する。その場合、調べ物学習のテーマについては、受講生の関心を優先できるように配慮する。 教員が指示する「読書」課題の遂行を受講生の成績評価に加味する。詳細は、初回の授業で説明す	

	る。

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語と社会	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	―	
科目概要	授業内容	この授業は「社会言語学」について学ぶ。社会言語学は、その名のとおり社会と言語の関係について学ぶ分野である。この授業では、特に日本語を取り巻く社会的な状況について、地域、年齢、性別などといった社会的属性に注目しながらことばのバリエーションを観察していく。
	到達目標	社会のなかでことば、特に日本語のバリエーションがどのような役割を果たしているのかを分析できるようになることを目標とする。また、私たちが過ごす鹿児島の方言が社会とどのように関係しているのかについても理解できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション　社会言語学とは何か？ (2) ことばのバリエーション (1) (3) ことばのバリエーション (2) (4) 国内の日本語のバリエーション (5) 海外の日本語バリエーション (6) ピジン・クレオール (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説　ことばの切換え (9) 言語の死と危機言語 (10)言語計画 (11)第一言語習得 (12)第二言語習得 (13)ことばのイメージ　言語景観 (14)小テスト (2) (15)小テスト (2) 解説　鹿児島方言と社会	
自学自習	事前学習	ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。
	事後学習	小テストと期末レポートに向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	社会言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。
	方法	期末レポート50%、小テスト20%、授業時の提出物・態度30% 正当な理由なく5回以上欠席した者は、期末レポートの提出を認めない。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本文学史Ⅰ	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	―	
科目概要	授業内容	日本の古代から中世までの古典文学の流れについて講述する。毎回、各時代の主要な作品を取り上げ、具体的に原文の一部を音読、鑑賞しながら、作品のもつ特徴について考察する。
	到達目標	1) 日本古典文学における時代区分やジャンルを理解する。 2) 作品の成立時期や作者、内容を説明することができる。 3) 作品の原文を正しく読み、鑑賞することができる。
授業計画	(1) 時代区分とジャンル (2) 神話と伝説 (3) 万葉仮名の和歌 (4) 漢詩文 (5) 中古の和歌 (6) 物語（源氏物語以前） (7) 日記文学 (8) 随筆文学 (9) 物語（源氏物語以後） (10)歴史物語 (11)説話文学 (12)軍記物語 (13)中世の和歌と連歌 (14)御伽草子 (15)総括	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読み、授業で取り上げる内容について把握しておくこと。
	事後学習	・授業で取り上げた作品の成立時期・作者・内容について十分に理解する。 ・授業で取り上げた作品の原文を熟読し、レポート課題をまとめる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』ミネルヴァ書房 2010年 ISBN 4623049620 久保田淳編『日本文学史』おうふう 1997年 ISBN 9784273029883 他
成績評価の基準と方法	基準	授業で取り上げた作品の成立時期・作者・内容について正しく理解し、原文を読解できれば合格とします。
	方法	テスト（60%）、レポート課題（30%）、受講態度（10%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本文学史Ⅱ	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	テキストを参照しながら近代日本文学史を概説する。各時代の代表的な作家、作品、思潮を解説する。
	到達目標	近代日本文学史の流れを理解し、代表的な作家、作品を知る。
授業計画	(1) イントロダクション　日本近代文学史とは？ (2) 明治初期の文学史 (3) 明治20年代の文学①　言文一致と小説論 (4) 明治20年代の文学②　近代文学のはじまり？ (5) 明治20年代の文学③　硯友社ほか (6) 明治20年代の文学④　『文学界』をめぐって (7) 日露戦争前後の文学　自然主義の周辺 (8) 明治40年代の文学①　＝外の復活 (9) 明治40年代の文学②　漱石の登場 (10)明治40年代の文学③　明治末期の同人誌 (11)大正の文学①　『新思潮』の周辺 (12)大正の文学②　プロレタリア文学 (13)昭和初期の文学①　新感覚派の登場 (14)昭和初期の文学②　「文芸復興」の周辺 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布。所持しているものは、高校時代の国語便覧を持参すること。
	参考文献	安藤宏『日本近代小説史』　2015年　ISBN978-4-12-110020-7
成績評価の基準と方法	基準	近代日本文学史に対する理解、関心が深められれば合格とする。
	方法	レポート60%、受講態度30%、コメントシート10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国文学概説Ⅰ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	古代から六朝時代までの中国文学史。但し中国の伝統的な意味での「文学」を、その担い手「士大夫」の活動という視点で講じる。
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 「文学」とは何か (3) 士大夫と中国の伝統的書籍分類体系 (4) 『詩経』について (5) 儒家思想と文学との関係 1 (6) 漢代の賦 1　司馬相如「上林賦」を読む (7) 漢代の賦 2　＝雄 (8) 漢代の詩と五言詩の起源 (9) 三国時代の詩 1 (10)三国時代の詩 2 (11)「三国時代における文学の独立」 (12)儒家思想と文学との関係 2 (13)『文選』と「文」 (14)『詩品』と『文心雕竜』 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	鈴木修次編『文学史』中国文化叢書 5 大修館書店 1967 年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書 4 大修館書店 1968 年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年
成績評価の基準と方法	基準	授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。
	方法	筆記試験 60%　出席態度 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国文学概説Ⅱ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	中国文学概説Ⅰで採りあげられなかった中国古典の重要なジャンルについての講義。
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 楚辞と屈原 1 (3) 楚辞と屈原 2 (4) 司馬遷と『史記』 (5) 正史の形式 (6) 『史記』司馬相如列伝を読む (7) 中国の叙事詩 1 (8) 中国の叙事詩 2 (9) 娯楽としての悲哀 (10)中国の小説 1 「小説」とは何か (11)中国の小説 2 志怪小説と志人小説 (12)士大夫と詩 1 阮籍 (13)士大夫と詩 2 陶淵明 (14)士大夫と詩 3 顧炎武「詩は必ずしも人々皆作るにあらず」 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	鈴木修次編『文学史』中国文化叢書 5 大修館書店 1967 年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書 4 大修館書店 1968 年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年
成績評価の基準と方法	基準	授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。
	方法	筆記試験 60% 出席態度 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	書道史	
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	書の歴史を時代別に区分し、古典を解説しながらその書法史の流れを捉える。
	到達目標	三千余年にわたる書の伝統と歴史は、書写文字の簡略化と美化の連続であったといえる。日本に伝わった漢字を受容し和様化と仮名を完成した日本人の感性など書の魅力は尽きない。中国と日本の書の歴史を豊富な古典の資料を解説しながら、時代区分を越えて展開されてきた大きな書法の流れを学習者が把握できるように授業を進めたい。
授業計画	(1) 中国書道史 文字の起源と甲骨文字 (2) 中国書道史 金文と周代の書法 (3) 中国書道史 秦代の文字の統一と隷書への変化へ (4) 中国書道史 漢代の隷書と用筆美 (5) 中国書道史 草書･行書・楷書の萌芽 (6) 中国書道史 六朝の書と書聖 (7) 中国書道史 隋･唐の楷書 (8) 中国書道史 個性と開放の宗代 (9) 中国書道史 元･明･清の書法とその流れ (10)中国書道史 帖学と碑学 (11)日本書道史 漢字の伝来 (12)日本書道史 奈良時代の書法と写経 (13)日本書道史 平安時代と仮名の完成 (14)日本書道史 その後の書道史と今後の書道 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと
	事後学習	・授業の初めに前回の授業内容の確認を行う。 ・前半に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	鈴木翠軒･伊東参州共著『新設 和漢書道史』日本習字普及協会 1996 年
	参考文献	藤原鶴来『和漢書道史』二玄社 1927 年
成績評価の基準と方法	基準	出席状況、レポート、受講態度と到達目標に達した者を合格とします。
	方法	レポート 70%、受講態度 30%
備考	適宜補充プリントを配布する。読書レポートの内容も成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英国の文化Ⅰ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	英国を支えてきた王室、政治、宗教、教育、マスメディア等の諸制度に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。
	到達目標	英文資料を使って英国の諸制度について概略理解する。
授業計画	(1) 英国概観 (2) 英国概観 (3) 王室 (4) 階級 (5) 国会 (6) 国会 (7) 司法 (8) 司法 (9) マスメディア (10)マスメディア (11)宗教 (12)宗教 (13)教育 (14)教育 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	学習した内容を復習し、重要事項、専門用語等を確認し、整理する。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料(英文)
	参考文献	酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る 緑と石とゆとりの国イギリス』ISBN978-4-434-11728-2、UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)
成績評価の基準と方法	基準	上記諸制度の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。
	方法	プレゼンテーション等授業貢献(40%)、終了試験(60%)。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英国の文化Ⅱ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	英国の宗教行事、年中行事、食文化に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。
	到達目標	英国の宗教、年中行事、食文化についてその内容と意義を概略理解する。
授業計画	(1) 年中行事概観 (2) 年中行事概観 (3) ハロウィーン (4) ハロウィーン (5) ガイフォークスデイ (6) クリスマス (7) クリスマス/ホグマネイ (8) セントバレンタインズデイ (9) イースター (10)イースター (11)イースター/マザーズデイ (12)メイデイ (13)食文化 (14)食文化 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習した事項の内容と意義を復習し、専門用語等を整理する。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 ISBN978-4-434-11728-2 UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)
成績評価の基準と方法	基準	上記諸行事の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。
	方法	プレゼンテーション等の授業貢献（４０％)、終了試験（６０％)。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	米国の歴史と文化Ⅰ	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。
授業計画	(1) 『白鯨』(1956年版)鑑賞 (2) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (3) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (4) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (7) 『パイレーツ・オブ・カリビアン―ブラックパールの呪い』鑑賞 (8) ディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (10)Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (11)Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (12)Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (13)Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (14)『パイレーツ・オブ・カリビアン』との比較 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。
使用教材・参考文献	使用教材	Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl（ペンギン）
	参考文献	適宜指示する
成績評価の基準と方法	基準	教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。
	方法	筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	米国の歴史と文化Ⅱ	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化＜歴史地理＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を精読、比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。
授業計画	(1) 『パイレーツ・オブ・カリビアン―デッドマンズ・チェスト』鑑賞 (2) 『白鯨』の原文名場面精読 (1) (3) 『白鯨』の原文名場面精読 (2) (4) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (7) 『白鯨』(1998年版) 鑑賞 (8) 前期の『白鯨』の授業についてディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (10)Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (11)Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (12)Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (13)Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (14)『白鯨』との比較 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。
使用教材・参考文献	使用教材	Pirates of the Caribbean Dead Man's Chest (ペンギン)
	参考文献	適宜指示する
成績評価の基準と方法	基準	教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。
	方法	筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル